

## 平成 30 年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成 30 年 3 月 30 日制定

平成 31 年 3 月 5 日変更

### (序 文)

独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条の規定により、平成 30 年 3 月 30 日付け 29 文科政第 97 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020 年東京大会」という。）に向けた文化プログラムへ積極的に参画する。

なお、本年度は国立能楽堂開場 35 周年及び国立劇場おきなわ開場 15 周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の伝統芸能の保存と振興に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 文化芸術活動に対する援助

##### (1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

##### ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動

###### (a) 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）による助成

- i. 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
- ii. 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
- iii. 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

###### (b) 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）による助成

- i. 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動（舞台芸術創造活動活性化事業）
- ii. 優れた日本映画の製作活動（映画創造活動支援事業）

また、上記に加え、平成 31 年度募集から実施することとしている「国際芸術交流支援事業」について、助成対象活動の募集、審査及び交付内定等の手続きを進める。

##### ② 文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの

###### (a) 芸術文化振興基金による助成

- i. 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- ii. 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

- (b) 文化芸術振興費補助金による助成（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
  - i. 我が国トップレベルの劇場・音楽堂等が行う事業
  - ii. 地域の中核的役割を担う劇場・音楽堂等が行う事業
  - iii. 複数の劇場・音楽堂等が複数又は単一の実演芸術団体等と共同して行う実演芸術の新たな創造活動
  - iv. 劇場・音楽堂等相互の連携・協力による巡回公演
- ③ その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動（以下、基金による助成）
  - (a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
  - (b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動
- イ 助成金交付事務の効率化等
  - ① 基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表する。
  - ② 助成対象活動について、専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等により、採択の審査過程で当該活動に期待された点の実現状況の確認等を目的とした公演等調査を行う。特に、補助金による助成対象活動のうち、舞台芸術創造活動活性化事業については、調査結果を踏まえて事後評価を行い、評価結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。  
また、劇場・音楽堂等機能強化推進事業については、事後評価に向け、専門委員及びPD・POによる現地調査及びヒアリングを開始する。
  - ③ 助成対象活動に係る会計の執行状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、PD・POによる助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換を実施する。
    - ・ 会計調査：90件以上（団体数）
    - ・ 公演等調査：500件以上（助成対象活動数）
  - ④ 特定の分野にとらわれることなく分野を横断した調査研究を進めるため、PD・PO等の体制強化を行う。  
また、助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等の結果を踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行うとともに、海外における公的助成システムの実態調査を行うなど、文化芸術に対する支援策等をより有効に機能させる上で必要となる調査研究を実施する。
  - ⑤ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付に係る業務等の効率化を図れるよう、地方公共団体と連携協力する。
  - ⑥ 助成金交付事務手続きの合理化を図るため、平成28年度に実施した「助成金の電子申請に関する実態調査」の結果も踏まえて、応募書類の電子データによる受付の実施について、平成31年度に予定している助成システム更改に向けた具体的な検討を行う。
- ウ 基金運用収入の将来見込みを踏まえ、補助金による助成事業との役割分担にも留意しつつ、効果的かつ効率的な支援の方策を含めた基金及び基金助成事業の将来の在り

方について検討を進める。

エ PD・PO 等を活用した審査・評価等の仕組みについては、今後とも文化庁と連携し、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。併せて、地域におけるアーツカウンシル機能を有する組織との連携を推進し、機関相互の情報交換やノウハウ等の共有を図るとともに、人的交流について検討を進める。

オ 助成事業によって得られた成果等について、公演事業、調査・養成事業等の振興会の他の事業に活用することを検討する。

カ 東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業については、平成 28 年度に交付決定を行った助成対象活動の実施状況とその活動の成果について、フォローアップを行う。

## (2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術団体が基金を含めた多様な助成制度を活用することができるよう、官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供する。

イ 振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させる。また、引き続き助成対象活動の事例集を作成・配布するとともに、ホームページに掲載する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 文化芸術団体等を対象とした応募相談会を、東京及び大阪のほか、各地域の主要都市で開催する。また、劇場・音楽堂等機能強化推進事業を通じて、劇場・音楽堂等のニーズを把握しつつ、新たな地域での応募相談会の実施の可能性について検討する。

- ・ 応募相談会実施件数：260 件以上（団体数）

## (3) 芸術文化振興基金の管理運用

基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

### (1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。

#### イ 演目の拡充

① 歌舞伎について、「復活上演候補演目一覧」の見直しの一環として、2 作品の補綴を行い、上演用準備台本を作成するとともに、「国立劇場文芸研究会」において、上演候補台本準備稿の作成作業を進める。

また、歌舞伎の新作脚本募集について、選考及び表彰を行う。

② 文楽について、新作の上演に向けて上演台本作成作業を行う。また、廃絶演目の復曲作業を進めるとともに、上演に向けた準備作業を行う。

③ 大衆芸能の新作脚本募集について、「講談」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。

また、過去の入選作品も含めて、上演に向けた準備作業を行う。

- ④ 能楽について、国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された、新作・復曲作品の再演を行う。
  - ⑤ 組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。
- (2) 現代舞台芸術の公演
- 現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。
- (3) 青少年等を対象とした公演
- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表 4 のとおり実施する。
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。
- ウ 2020 年東京大会に向けた文化プログラムに対応し、外国人を対象とした公演・入門企画を別表 5 のとおり実施する。
- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
- ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。
- イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。
- ① 共催、受託等による公演等を別表 6 のとおり実施する。
  - ② 全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施する。
  - ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施する。
- (5) 快適な観劇環境の形成
- ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行う。
- また、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮し、劇場内外の環境整備等各種サービスの充実に努める。
- イ 入場券販売において、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。
- ウ 公演内容等の理解を促進するため、公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示を行う。
- また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会等を適宜行う。
- エ アンケート調査等により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。
- ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見・要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。また、内容を集計・分析し、その結果をサービスの向上に活用する。
- (6) 広報・営業活動の充実
- ア 効果的な広報・営業活動の展開
- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インタ

ーネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。

- ② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。
  - (a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。
  - (b) SNS やメールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。
  - (c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実に図り、外国人に対する情報発信を強化する。
  - (d) beyond2020 プログラム等への参加を通して、国内外に向けた振興会各種事業の情報発信及び周知を効果的に行う。
- ③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。
  - ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
  - ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
  - ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）
- ④ 観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。
- ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。
- ⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。

さらに、NPO 法人人形浄瑠璃文楽座と連携し、近畿圏の 30 歳以下の観客を対象とする企画「ワンコイン文楽」を継続する。
- ⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報等による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、引き続きアンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用する。

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）
    - ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
    - ・ 会員向けイベント：年 8 回程度
  - ② 国立文楽劇場友の会
    - ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）
    - ・ 会員向けイベント：年 6 回程度
  - ③ 国立劇場おきなわ友の会
    - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年 4 回発行）
    - ・ 会員向けイベント：年 3 回程度
  - ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
    - ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
    - ・ 会員向けイベント：年 12 回程度
- (7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与する。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
- ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
- ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

ウ 振興会が有する 6 劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化する。

### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

#### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、各分野の充足状況及び年齢構成等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

#### ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 第 23 期生 (研修期間 2 年、6 名) の 2 年目の養成研修 (修了)

(歌舞伎音楽)

(b) 竹本第 23 期生 (研修期間 2 年、2 名) の 2 年目の養成研修 (修了)

(c) 鳴物第 16 期生 (研修期間 2 年、1 名) の 2 年目の養成研修 (修了)

(d) 長唄第 7 期生 (研修期間 3 年、2 名) の 3 年目の養成研修 (修了)

#### ② 大衆芸能

(a) 寄席囃子第 15 期生 (研修期間 2 年、3 名) の 1 年目の養成研修

#### ③ 能楽 (ワキ・囃子・狂言：研修期間 6 年)

(a) 第 9 期生 (2 名) の 5 年目の養成研修

(b) 第 10 期生 (2 名) の 2 年目の養成研修

#### ④ 文楽 (太夫、三味線、人形：研修期間 2 年)

(a) 第 28 期生 (1 名) の 2 年目の養成研修 (修了)

#### ⑤ 組踊 (立方・地方：研修期間 3 年)

(a) 第 5 期生 (10 名) の 2 年目の養成研修

#### ⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、次のとおり研修発表会を実施する。

(a) 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽、大衆芸能 (1 公演)

- ・ 第 23 期歌舞伎俳優・第 23 期歌舞伎音楽 (竹本)・第 16 期歌舞伎音楽 (鳴物)・第 7 期歌舞伎音楽 (長唄) 研修修了発表会、第 15 期大衆芸能 (寄席囃子) 研修

発表会（合同）（本館小劇場）、2月23日、1回

(b) 能楽（4公演）

- ・ 第16回青翔会（能楽堂）、6月12日、1回
- ・ 第17回青翔会（能楽堂）、10月16日、1回
- ・ 第18回青翔会（能楽堂）、3月12日、1回
- ・ 東西合同研究発表会（大槻能楽堂）、8月28日、1回

(c) 文楽（1公演）

- ・ 文楽第28期生研修修了発表会（文楽劇場）、1月27日、1回

(d) 組踊（2公演）

- ・ 第5期組踊研修生第3回研修発表会（国立劇場おきなわ大劇場）、10月18日、1回
- ・ 第5期組踊研修生第4回研修発表会（国立劇場おきなわ大劇場）、3月7日、1回

⑦ 下記の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討し、募集を行う。

(a) 第24期歌舞伎俳優

(b) 第24期歌舞伎音楽（竹本）

(c) 第17期歌舞伎音楽（鳴物）

(d) 第8期歌舞伎音楽（長唄）

(e) 第29期文楽

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

① 既成者研修発表会

(a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2公演）

- ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演（本館小劇場）8月16日～20日、5回
- ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8月25日～26日、4回

(b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1公演）

- ・ 音の会（本館小劇場）8月11日～12日、2回

(c) 能楽既成者研修発表会（3公演）

- ・ 若手能（京都：観世会館）6月23日、1回
- ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1月19日、1回
- ・ 若手能（東京：能楽堂）2月2日、1回

(d) 文楽既成者研修発表会（4公演）

- ・ 文楽若手会（文楽劇場）6月23日～24日、2回
- ・ 文楽若手会（本館小劇場）6月28日～29日、2回
- ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8月、1回
- ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）2月、1回

(e) 組踊既成者研修発表会（1公演）

- ・ 若手伝承者公演（国立劇場おきなわ大劇場）12月15日、1回

② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

なお、オペラ研修の歌唱コンサート、バレエ研修の「バレエ・アステラス 2018」及び「ワガノワ・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念ガラコンサート」への出演については、「国際文化交流の進展に寄与する公演等」（別表 8）に位置付け実施する。

① オペラ研修（研修期間 3 年）

- (a) 第 19 期生（5 名）の 3 年目の研修（修了）
- (b) 第 20 期生（5 名）の 2 年目の研修
- (c) 第 21 期生（5 名）の 1 年目の研修
- (d) 第 22 期生（5 名程度）の募集
- (e) 研修発表会等（3 公演）
  - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）6 月 29 日～7 月 1 日、3 回
  - ・ 歌唱コンサート（新国立劇場オペラ劇場）9 月 17 日、1 回（予定）  
※世界の有数オペラアカデミーの研修生を招き上演する。
  - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）3 月 8 日～10 日、3 回
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9 月～10 月と 3 月に海外研修を行う。

② バレエ研修（研修期間 2 年）

- (a) 第 14 期生（6 名）の 2 年目の研修（修了）
- (b) 第 15 期生（6 名）の 1 年目の研修
- (c) 第 16 期生（6 名程度）の募集
- (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
  - ・ 第 9 期生（3 名）の 2 年目の研修
  - ・ 第 10 期生（3 名）の 1 年目の研修
  - ・ 第 11 期生（若干名）の募集
- (e) 研修発表会等（3 公演）
  - ・ 「バレエ・アステラス 2018」（新国立劇場オペラ劇場）7 月 28 日、1 回  
※海外のバレエ団に所属し活躍する若手日本人バレエダンサー等を招き上演する。
  - ・ 研修所公演（新国立劇場中劇場）11 月 17 日～18 日、2 回
  - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）3 月 16 日～17 日、2 回
- (f) 国際的な舞台経験を積むため、「ワガノワ・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念ガラコンサート」に出演する。（ロシア、ボリショイ劇場、国立クレムリン宮殿）6 月 19 日～20 日、2 回
- (g) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う。

③ 演劇研修（研修期間 3 年）

- (a) 第 12 期生（10 名）の 3 年目の研修（修了）
- (b) 第 13 期生（10 名）の 2 年目の研修
- (c) 第 14 期生（16 名）の 1 年目の研修
- (d) 第 15 期生（16 名程度）の募集



- (e) 研修発表会等（3公演）
  - ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」（新国立劇場小劇場）8月1日～4日、4回（予定）
  - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）10月26日～31日、6回（予定）
  - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）2月8日～13日、6回（予定）
- (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項
  - ア 養成・研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。
  - イ 養成・研修成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修生及び研修修了者によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。  
また、外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努める。
  - ウ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
  - エ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
  - オ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
  - ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。
    - ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用する。
    - ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、高知県高知市に伝わる山内家の能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究を行う。その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用する。
      - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十三巻
      - (b) 特別展「土佐山内家の能楽」図録
      - (c) 「義太夫年表」及び「琉球・沖縄芸能史年表」の刊行準備
    - ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布する。
      - (a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第二冊
      - (b) 未翻刻戯曲集第二十五巻
      - (c) 正本写合巻集 22・23
    - ④ 調査研究の成果については、従来の刊行等に加え、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的な活用方法を検討する。
  - イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施す

る。

- ① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を行う。

図書については、開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。

博物資料等については、適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用に努める。

- ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり行う。

- (a) 図書、錦絵、ブロマイド、公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）のデータベース化

- (b) デジタルコンテンツの充実

- i. 文化デジタルライブラリーユネスコ無形文化遺産コンテンツ「歌舞伎への誘い」の多言語版の製作

- ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数：510,000件

- (c) 収集した資料等の展示公開（別表9）

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る。

- (d) 展示図録の刊行

- i. 特別展「土佐山内家の能楽」図録（能楽堂・再掲）

- ii. 企画展「囃子方と楽器」図録（能楽堂）

- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

- ① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会等を実施する。

- ② 海外の劇場等の情報を収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラムやホームページ等において公開する。

- ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存を行い、他の劇場施設等への貸与を行う。

- ④ 明治元年から現代までの日本の現代舞台芸術に関する年表をパネル展示等で引き続き紹介する。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。

- ① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。

- ② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を行う。

- ③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表9のとおり行う。実施に当たっては、舞台美術センター資料館の現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方について、引き続き検討する。

また、オンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、伝統芸能及び現代舞台芸術の研究等に活用する。

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。

- ① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 10 のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める。
- ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進するため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、過去の組織改正の効果を踏まえ、引き続き業務・組織体制について検討し、必要な措置を講ずる。

2020年東京大会やラグビーワールドカップ2019開催に向け、我が国の舞台芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、企画立案・広報機能の強化を図る。

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。

また、その取組状況をホームページで公表する。

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺他機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ① コピー用紙
- ② トイレトペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(5) 情報システムの活用

業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。

III 予算、収支計画及び資金計画

- 1 予算 別紙1のとおり
- 2 収支計画 別紙2のとおり
- 3 資金計画 別紙3のとおり
- 4 保有資産の処分

保有資産については、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 平成29年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

また、上記の自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

ウ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 情報システムの更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に、業務効率の一層の向上と運用経費の削減を図るため、外部サービスの活用を推進する。

イ 情報セキュリティ対策に関する意識を高めるため、各職員の自己点検の実施に加え、専門家による研修等を実施する。

2 施設及び設備に関する計画

- (1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。併せて28年度策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」

の策定作業を進める。また、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の改修については、これまでの国立劇場等大規模改修基本計画を見直し、新たに基本計画を策定する。また、整備手法の検討のためにPFI導入可能性調査を行う。

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施する。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意する。

### 3 人事に関する計画

#### (1) 方針

- ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。
- イ 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。
- ウ 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。
- エ 多様な働き方を推進するための制度導入を検討する。

#### (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

### 4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る。

[別表1] 伝統芸能の公開に関する計画

1 歌舞伎 目標入場者数：214,200人 (29年度計画目標224,000人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月1日～25日	25回	25日	20,500人
11月歌舞伎公演	〃	11月3日～26日	24回	24日	18,000人
12月歌舞伎公演	〃	12月3日～26日	24回	24日	22,700人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	26,900人
3月歌舞伎公演	本館小劇場	3月3日～27日	23回	23日	7,800人
本公演(5公演)小計			121回	121日	95,900人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「未定」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	55,100人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「未定」	〃	7月3日～24日	44回	22日	63,200人
鑑賞教室(2公演)小計			90回	45日	118,300人
歌舞伎(7公演)合計			211回	166日	214,200人

2 文楽 目標入場者数：173,970人 (29年度計画目標174,770人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月文楽公演「本朝廿四孝」ほか	本館小劇場	5月12日～28日	34回	17日	16,700人
9月文楽公演	〃	9月8日～24日	34回	17日	17,000人
12月文楽公演	〃	12月6日～18日	13回	13日	6,770人
2月文楽公演	〃	2月2日～18日	51回	17日	21,400人
12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、「未定」	〃	12月6日～18日	24回	13日	12,800人
本館(5公演)小計			156回	77日	74,670人
4月文楽公演「本朝廿四孝」ほか	文楽劇場	4月7日～30日	46回	23日	19,600人
夏休み文楽特別公演	〃	7月21日～8月7日	54回	18日	21,000人
11月文楽公演	〃	11月3日～11月25日	44回	22日	19,400人
初春文楽公演	〃	1月3日～25日	44回	22日	21,000人
6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「絵本太功記」	〃	6月8日～21日	28回	14日	18,300人
文楽劇場(5公演)小計			216回	99日	99,300人
文楽(10公演)合計			372回	176日	173,970人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等 目標入場者数：16,060人 (29年度計画目標15,635人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月舞踊公演「変化舞踊」	本館大劇場	5月26日	1回	1日	1,080人
8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館小劇場	8月25日	2回	1日	680人
11月舞踊公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」	〃	11月23日	2回	1日	1,040人
6月邦楽公演「日本音楽の流れⅡー琵琶ー」	〃	6月2日	1回	1日	420人
10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	10月20日	1回	1日	560人
1月邦楽公演「邦楽鑑賞会ー長唄の会ー、ー三曲の会ー」	〃	1月19日～20日	2回	2日	1,000人
6月雅楽公演「雅楽の魅力」	〃	6月9日	1回	1日	400人
2月雅楽公演「舞楽」	本館大劇場	2月11日	1回	1日	1,450人
9月声明公演「真宗高田派本山 専修寺の声明(仮)」	〃	9月1日	1回	1日	1,270人
6月民俗芸能公演「毛越寺の延年(仮)」	本館小劇場	6月16日	2回	1日	960人
1月民俗芸能公演「田楽(仮)」	〃	1月26日	2回	1日	750人
3月琉球芸能公演「組踊と琉球舞踊(仮)」	本館大劇場	3月9日	1回	1日	1,100人

4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館小劇場	4月21日	1回	1日	390人
7月 第9回伝統芸能の魅力「親子で楽しむ舞踊・邦楽(仮)」	〃	7月7日	1回	1日	420人
7月 第10回伝統芸能の魅力「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」	〃	7月21日	2回	1日	1,050人
10月特別企画公演「舞踊・邦楽名作選～明治150年～(仮)」	〃	10月6日	1回	1日	400人
11月特別企画公演「『蘭陵王』を巡る(仮)」	〃	11月10日	1回	1日	490人
本館(17公演)小計			23回	18日	13,460人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月13日	2回	1日	800人
8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8月18日	1回	1日	400人
9月特別企画公演	〃	9月15日	2回	1日	1,000人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5月12日	1回	1日	400人
文楽劇場(4公演)小計			6回	4日	2,600人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等(21公演)合計			29回	22日	16,060人

#### 4 大衆芸能

目標入場者数：52,844人

(29年度計画目標53,330人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定席公演(上席・中席)(22公演)	演芸場	毎月実施 (5月・1月は中席のみ)	241回	219日	35,600人
若手新人公演(花形演芸会)(12公演)	〃	毎月実施	12回	12日	3,306人
新春名人会	〃	1月2日～7日	8回	6日	2,360人
国立名人会(11公演)	〃	毎月実施 (4月を除く)	11回	11日	3,136人
特別企画公演(10公演)	〃	毎月実施 (1～3月を除く)	15回	14日	4,102人
演芸場(56公演)小計			287回	262日	48,504人
浪曲名人会	文楽劇場	2月23日	1回	1日	680人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5月26日	2回	1日	290人
上方演芸特選会(6公演)	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,370人
文楽劇場(8公演)小計			27回	26日	4,340人
大衆芸能(64公演)合計			314回	288日	52,844人

#### 5 能楽

劇場：能楽堂

目標入場者数：35,560人

(29年度計画目標38,980人)

下記公演のうち、8月30日から1月までの公演については、「開場35周年記念」として実施する。

定例公演	公演名	公演日	回数	日数	入場者数
	狂言「口真似」、能「鞍馬天狗」	4月4日	1回	1日	580人
	狂言「武悪」、能「籠太鼓 舞入」	4月20日	1回	1日	580人
	狂言「水掛聲」、能「放下僧」	5月9日	1回	1日	580人
	狂言「成上り」、能「杜若」	5月18日	1回	1日	580人
	狂言「栗田口」、能「敦盛」	6月6日	1回	1日	580人
	狂言「神鳴」、能「遊行柳 青柳之舞」	6月15日	1回	1日	580人
	月間特集 能のふるさと・越路 狂言「金津」、能「歌占」	7月4日	1回	1日	580人
	月間特集 能のふるさと・越路 狂言「鏡男」、能「木曾 願書」	7月18日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 月間特集 所縁の能・狂言 狂言「越後聲」、能「芦刈」	10月3日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 月間特集 所縁の能・狂言 狂言「右近左近」、能「自然居士 古式」	10月19日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 狂言「千鳥」、能「三井寺」	11月7日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 演出の様々な形 狂言「狐塚 小唄入」、能「小鍛冶 黒頭」	11月16日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 狂言「文蔵」、能「芭蕉」	12月5日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 演出の様々な形 狂言「狐塚」、能「小鍛冶 白頭」	12月13日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 能「高砂」、狂言「夷毘沙門」	1月5日	1回	1日	580人
	開場35周年記念 狂言「ぬげから」、能「夜討曾我 大藤内」	1月30日	1回	1日	580人

	月間特集 近代絵画と能 狂言「末広かり」、能「草子洗小町 替装束」	2月20日	1回	1日	580人	
	狂言「雪打」、能「藤戸」	3月6日	1回	1日	580人	
定例公演（18公演）小計			18回	18日	10,440人	
普及公演	解説、狂言「止動方角」、能「小塩」	4月14日	1回	1日	610人	
	解説、狂言「茶壺」、能「俊寛」	5月12日	1回	1日	610人	
	解説、狂言「蚊相撲」、能「雲雀山」	6月9日	1回	1日	610人	
	月間特集 能のふるさと・越路 解説、狂言「佐渡狐」、能「山姥」	7月7日	1回	1日	610人	
	開場35周年記念 月間特集 所縁の能・狂言 解説、狂言「木六駄」、能「絃上」	10月13日	1回	1日	610人	
	開場35周年記念 解説、狂言「鳥山伏」、能「鉄輪 早鼓之伝」	11月10日	1回	1日	610人	
	開場35周年記念 解説、狂言「文相撲」、能「経正 替之型」	12月8日	1回	1日	610人	
	開場35周年記念 解説、狂言「鐘の音」、能「東北」	1月12日	1回	1日	610人	
	月間特集 近代絵画と能 解説、狂言「腰折」、能「松風 見留」	2月23日	1回	1日	610人	
	解説、狂言「寝音曲」、能「桜川」	3月9日	1回	1日	610人	
普及公演（10公演）小計			10回	10日	6,100人	
企画公演	【企画公演】特集 西行 生誕900年記念 解説、仕舞「実方」、狂言「鳴子遣子」、能「西行桜」	4月26日	1回	1日	590人	
	【企画公演】特集 西行 生誕900年記念 解説、舞囃子「松山天狗」、狂言「花折」、能「江口」	4月29日	1回	1日	590人	
	【狂言の会】家・世代を越えて 狂言「舟渡掣」、狂言「清水」、狂言「禰宜山伏」	5月25日	1回	1日	590人	
	【企画公演】月間特集 能のふるさと・越路 中世のおもかげー「柏崎」 綾子舞、能「柏崎」	7月29日	1回	1日	590人	
	【企画公演】働く貴方に贈る 対談または実演、狂言「瓜盗人」、能「通盛」	8月2日	1回	1日	590人	
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8月4日	1回	1日	590人	
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「附子」、狂言「菌」	8月25日	1回	1日	590人	
	開場35周年記念【企画公演】 素の魅力 仕舞・一調、舞囃子「智恵子抄」、狂言「釣狐 前」	8月30日	1回	1日	590人	
	【開場35周年記念公演】 「翁 松竹風流」、能「井筒 物著」、能「乱 置壺」	9月5日	1回	1日	590人	
	【開場35周年記念公演】 能「安宅」、狂言「栗焼」、能「砧」	9月8日	1回	1日	590人	
	【開場35周年記念公演】 能「嵐山 白頭鶴入り」・間狂言「猿掣」、能「定家」	9月15日	1回	1日	590人	
	【開場35周年記念公演】 仕舞「求塚」、狂言「見物左衛門 深草祭」、能「清経 音取」	9月21日	1回	1日	590人	
	【開場35周年記念公演】狂言の会 狂言「福の神」、狂言「射狸」、狂言「木実争」	9月28日	1回	1日	590人	
	開場35周年記念【企画公演】月間特集 所縁の能・狂言 狂言「枕物狂」、能「竹生島 女体」	10月25日	1回	1日	590人	
	開場35周年記念【企画公演】 蠟燭の灯りによる 狂言「石神」、能「調伏曾我」	11月30日	1回	1日	590人	
	開場35周年記念【特別企画公演】明治150年記念「苦難を乗り越えた能楽」 狂言「呼声」、能「道成寺」	12月22日	1回	1日	590人	
	開場35周年記念【狂言の会】 狂言「居杭」、狂言「楽阿弥」、復曲狂言「竹松」	1月18日	1回	1日	590人	
	開場35周年記念【特別企画公演】明治150年記念「苦難を乗り越えた能楽」 狂言「棒縛」、能「道成寺」	1月25日	1回	1日	590人	
	【特別公演】月間特集 近代絵画と能 仕舞「船弁慶」、新作狂言「子子」、能「石橋」	2月28日	1回	1日	590人	
	【特別公演】 能「知章」、狂言「しびり」、能「藍染川」	3月21日	1回	1日	590人	
	【企画公演】能を再発見する 寺社と能・清涼寺 嵯峨大念仏狂言、能「百万」	3月28日	1回	1日	590人	
	企画公演（21公演）小計			21回	21日	12,390人
	鑑賞教室	【外国人のための能楽鑑賞教室】 解説、狂言「盆山」、能「船弁慶」	5月30日	1回	1日	580人
解説、狂言「清水」、能「葵上」		6月18日～22日	10回	5日	6,050人	
鑑賞教室（2公演）小計			11回	6日	6,630人	
能楽（51公演）合計			60回	55日	35,560人	



## 6 組踊等沖縄伝統芸能

目標入場者数：16,784人

(29年度計画目標16,175人)

下記公演のうち、1月から3月までの公演については、「国立劇場おきなわ開場15周年記念特別公演」として実施する。

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定期公演	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	国立劇場おきなわ大劇場	4月21日	1回	1日	495人
	三線音楽「唄方～うたかた～」	〃	5月12日	1回	1日	402人
	組踊「大川敵討」	〃	5月26日	1回	1日	339人
	民俗芸能「八重山諸島の芸能」	〃	6月24日	1回	1日	402人
	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	〃	7月7日	1回	1日	464人
	組踊「万歳敵討」	〃	7月21日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月8日	1回	1日	495人
	組踊「義巨物語」	〃	9月29日	1回	1日	339人
	三線音楽「琉球弧の島唄」	国立劇場おきなわ小劇場	10月13日	2回	1日	324人
	組踊「雪払」	国立劇場おきなわ大劇場	10月27日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	12月8日	1回	1日	495人
	組踊「運天の若按司敵討」	〃	12月22日	1回	1日	339人
	開場15周年記念 琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	2月16日	1回	1日	495人
	開場15周年記念 民俗芸能「村々に伝わる組踊・狂言」	〃	3月3日	1回	1日	402人
	開場15周年記念 沖縄芝居「時代幻想劇『王女御殿』」	〃	3月16日～17日	2回	2日	744人
定期公演（15公演）小計				17回	16日	6,413人
企画公演	新作組踊「真珠道」	国立劇場おきなわ大劇場	4月14日	1回	1日	339人
	創作舞踊と新作組踊「平敷屋朝敵」	〃	8月18日	1回	1日	402人
	ゆらていく遊ば	〃	10月6日	1回	1日	425人
	国立劇場寄席	〃	11月11日	1回	1日	495人
	アジア・太平洋地域の芸能	〃	11月24日	1回	1日	371人
	開場15周年記念 琉球舞踊と組踊「辺戸の大主」／琉球舞踊と組踊「孝行の巻」	〃	1月12日～13日	2回	2日	734人
	開場15周年記念 絃への誘い～三線音楽・三味線音楽～	〃	1月26日	1回	1日	371人
	開場15周年記念 狂言～野村万作・野村萬斎～	〃	2月8日～9日	2回	2日	990人
	開場15周年記念 創作組踊「人盗人」新組踊「もどろみゆ華の命」	〃	3月23日	1回	1日	371人
企画公演（9公演）小計				11回	11日	4,498人
研究公演	女性の演じる組踊	国立劇場おきなわ大劇場	6月9日	1回	1日	339人
	研究公演（1公演）小計				1回	1日
普及公演	組踊鑑賞教室「銘苺子」	国立劇場おきなわ大劇場	6月30日	1回	1日	405人
	琉球舞踊鑑賞教室	〃	7月28日	1回	1日	396人
	親子のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	8月11日	1回	1日	405人
	沖縄芝居鑑賞教室	〃	9月13日～15日	3回	3日	1,206人
	組踊鑑賞教室「雪払い」	〃	11月14日～17日	7回	4日	3,122人
普及公演（5公演）小計				13回	10日	5,534人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計				42回	38日	16,784人
伝統芸能分野（183公演）合計				1,028回	745日	509,418人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ					
		目標入場者数：75,400人	(29年度計画目標73,700人)		
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「アイダ」	新国立劇場 オペラ劇場	4月5日～22日	7回	7日	10,700人
「フィデリオ」(新制作)	〃	5月20日～6月2日	5回	5日	6,300人
「トスカ」	〃	7月1日～15日	5回	5日	7,600人
「魔笛」(新制作)	〃	10月3日～14日	6回	6日	9,300人
「カルメン」	〃	11月23日～12月4日	6回	6日	9,100人
「ファルスタッフ」	〃	12月6日～15日	4回	4日	5,400人
「タンホイザー」	〃	1月27日～2月9日	5回	5日	7,400人
「紫苑物語」(新制作・世界初演)	〃	2月17日～24日	4回	4日	5,100人
「ヴェルテル」	〃	3月19日～26日	4回	4日	5,100人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「トスカ」	〃	7月6日～14日	6回	6日	9,400人
オペラ(10公演)合計			52回	52日	75,400人

  

2 バレエ					
		目標入場者数：64,700人	(29年度計画目標54,000人)		
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「白鳥の湖」	新国立劇場 オペラ劇場	4月30日～5月6日	7回	6日	10,800人
「眠れる森の美女」	〃	6月9日～17日	5回	4日	8,000人
「不思議の国のアリス」(新制作)	〃	11月2日～11日	8回	7日	13,000人
「くるみ割り人形」	〃	12月16日～24日	9回	6日	13,300人
ニューイヤール・バレエ	〃	1月12日～14日	3回	3日	3,800人
「ラ・バヤデル」	〃	3月2日～10日	5回	4日	6,300人
こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	〃	7月21日～24日	8回	4日	9,500人
バレエ(7公演)合計			45回	34日	64,700人

  

3 現代舞踊					
		目標入場者数：5,600人	(29年度計画目標5,300人)		
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
森山開次「サーカス」	新国立劇場 小劇場	5月19日～27日	8回	6日	2,100人
JAPON dance project 2018×新国立劇場バレエ団 「Summer/Night/Dream」	新国立劇場 中劇場	8月25日～26日	2回	2日	1,200人
ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2018	〃	11月24日～25日	2回	2日	1,200人
新国立劇場バレエ団 DANCE to the Future 2019	新国立劇場 小劇場	3月29日～31日	4回	3日	1,100人
現代舞踊(4公演)合計			16回	13日	5,600人

  

4 演劇					
		目標入場者数：47,900人	(29年度計画目標61,500人)		
公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「1984」(日本初演)	新国立劇場 小劇場	4月12日～5月13日	35回	28日	9,600人
「ヘンリー五世」	新国立劇場 中劇場	5月17日～6月3日	20回	16日	12,000人
「夢の裂け目」	新国立劇場 小劇場	6月4日～24日	24回	19日	6,200人
「消えていくなら朝」(新作)	〃	7月12日～29日	18回	16日	4,100人
「誤解」(新訳上演)	〃	10月4日～21日	16回	16日	4,100人
「誰もいない国」	〃	11月8日～25日	16回	16日	4,100人
「スカイライト」(新訳上演)	〃	12月1日～24日	24回	19日	6,100人
こつこつプロジェクトーディベロップメントー リーディング公演	〃	3月13日～17日	9回	5日	1,700人
演劇(8公演)合計			162回	135日	47,900人

  

現代舞台芸術分野(29公演)合計			回数	日数	目標入場者数
			275回	234日	193,600人

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「未定」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	55,100人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「未定」	〃	7月3日～24日	44回	22日	63,200人
文楽	12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、「未定」	本館小劇場	12月6日～18日	24回	13日	12,800人
〃	6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「絵本太功記」	文楽劇場	6月8日～21日	28回	14日	18,300人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「清水」、能「葵上」	能楽堂	6月18日～22日	10回	5日	6,050人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	9月13日～15日	3回	3日	1,206人
〃	組踊鑑賞教室「雪払い」	〃	11月14日～17日	7回	4日	3,122人
伝統芸能（7公演）合計				162回	84日	159,778人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「トスカ」	新国立劇場 オペラ劇場	7月6日～14日	6回	6日	9,400人
バレエ	こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	〃	7月21日～24日	8回	4日	9,500人
現代舞踊	森山開次「サーカス」	新国立劇場 小劇場	5月19日～27日	8回	6日	2,100人
現代舞台芸術（3公演）合計				22回	16日	21,000人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人・親子等を対象とした公演・入門企画に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月8日	1回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月13日・20日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月16日・20～24日	11回	6日
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12月7日・10日・14日	3回	3日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月13日・19日	2回	2日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部親子劇場）	〃	7月21日～8月7日	18回	18日
舞踊 邦楽	7月 第9回伝統芸能の魅力「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	本館小劇場	7月7日	1回	1日
雅楽 声明	7月 第10回伝統芸能の魅力「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」	〃	7月21日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月28日	1回	1日
能楽	【企画公演】働く貴方に贈る	能楽堂	8月2日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	〃	8月4日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月25日	1回	1日
組踊等	組踊鑑賞教室「銘苺子」	国立劇場おきなわ 大劇場	6月30日	1回	1日
〃	琉球舞踊鑑賞教室	〃	7月28日	1回	1日
〃	親子のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	8月11日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表5] 外国人を対象とした公演・入門企画に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	6月15日	2回	1日
文楽	12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	12月17日	1回	1日
〃	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月16日	1回	1日
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	5月30日	1回	1日
組踊等	組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	国立劇場おきなわ 大劇場	11月17日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表6] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
受託	国立劇場おきなわ普及促進事業	沖縄県内公立文化施設	2回程度	市町村教育委員会等
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業 (国立劇場おきなわ県外公演)	京都府京都市 (予定)	2月	沖縄県、他
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 小劇場	7～3月 (14～15回予定)	(公財) 沖縄県文化振興会
伝統芸能分野 合計 3 公演				
共催	オペラ「外套」「修道女アンジェリカ」 「ジャンニ・スキッキ」	新国立劇場 オペラ劇場	9月6日～9日 (4回)	(公財) 東京二期会、(公財) 日本オペラ振興会
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演) 「魔笛」	ロームシアター 京都	10月29日～31日 (2回)	京都市、(公財) 京都市音楽芸術文化振興財団
提携	オペラ「トスカ」	びわ湖ホール	7月21日～22日 (2回)	(公財) びわ湖芸術文化財団
現代舞台芸術分野 合計 3 公演				

[別表7] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンション アーツセンター グランシップ	6月26日 (2回)	(公財) 静岡県文化財団、静岡 県、他
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年 センター	7月26日～27日 (4回)	かながわ伝統芸能祭実行委員会
〃	国立劇場おきなわ県外公演 (沖縄県文化観光戦略推進事業)	京都府京都市 (予定)	2月	沖縄県、他
伝統芸能分野 合計 3 公演				
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演) 「魔笛」	ロームシアター 京都	10月29日～31日 (2回)	京都市、(公財) 京都市音楽芸術文化振興財団
提携	オペラ「トスカ」	びわ湖ホール	7月21日～22日 (2回)	(公財) びわ湖芸術文化財団
受託	演劇「赤道の下のマクベス」	兵庫県立芸術 文化センター	4月5日～6日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化セン ター
〃	〃	穂の国とよはし 芸術劇場 P L A T	4月11日 (1回)	(公財) 豊橋文化振興財団
〃	〃	北九州芸術劇場	4月15日 (1回)	(公財) 北九州市芸術文化振興財 団
〃	演劇「1984」	兵庫県立芸術 文化センター	5月16日～17日 (3回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化セン ター
〃	〃	穂の国とよはし 芸術劇場 P L A T	5月20日 (1回)	(公財) 豊橋文化振興財団
〃	演劇「夢の裂け目」	兵庫県立芸術 文化センター	6月27日～28日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化セン ター
〃	こころで聴く三島由紀夫VII	山中湖村公民館	7月22日 (1回)	山中湖村、三島由紀夫文学館
〃	演劇「消えていくなら朝」	兵庫県立芸術 文化センター	8月4日 (1回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化セン ター
〃	〃	穂の国とよはし 芸術劇場 P L A T	8月8日 (1回)	(公財) 豊橋文化振興財団
〃	〃	そびあ新宮	8月12日 (1回)	(公財) 新宮町文化振興財団
〃	こどものためのパレエ劇場「シンデレラ」	新潟県民会館	9月23日 (1回)	(公財) 新潟県文化振興財団
〃	パレエ「白鳥の湖」	札幌市民交流ブラ ザ	11月23日～24日 (2回)	(公財) 札幌市芸術文化財団
〃	演劇「スカイライト」	兵庫県立芸術 文化センター	12月27日～28日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化セン ター
現代舞台芸術分野 合計 15 公演				

[別表8] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	6月15日 (2回)	
12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	12月17日 (1回)	
6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月16日 (1回)	
外国人のための能楽鑑賞教室「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	5月30日 (1回)	
組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	国立劇場おきなわ 大劇場	11月17日 (1回)	沖縄県、他
アジア・太平洋地域の芸能	〃	11月24日 (1回)	文化庁芸術祭執行委員会
文化交流事業(文楽)	韓国	10月 (1回)	韓国・国立無形遺産院
伝統芸能分野 合計 7 件			
バレエ研修所「バレエ・アステラス2018」	新国立劇場 オペラ劇場	7月28日 (1回)	ミラノスカラ座アカデミー他
オペラ研修所 歌唱コンサート 「世界若手オペラ歌手ガラ公演(仮称)」	新国立劇場 オペラ劇場	9月17日 (1回) 予定	バイエルン州立歌劇場附属オペラ 研修所 ミラノスカラ座アカデミー ロイヤル・オペラ研修所
バレエ「不思議の国のアリス」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	11月2日～11日 (7日8回)	オーストラリア・バレエ
バレエ研修所 「ワガノワ・バレエ・アカデミー創立280周年記念ガラ コンサート」出演	ボリショイ劇場 国立クレムリン宮 殿	6月19日～20日 (2日2回)	ロシア連邦国立高等教育機関ワガ ノワ記念ロシア・バレエ・アカ デミー
現代舞台芸術分野 合計 4 件			

[別表9] 展示に関する計画

目標来場者数合計：202,458人 (29年度・193,867人)

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「役者絵の世界」(仮題)	伝統芸能情報館 情報展示室	4/1～5/28	58日	6,597人
企画展示「悪を演(や)る -舞台における悪の創造-」(仮題)		6/2～9/24	114日	19,707人
企画展示「明治の歌舞伎」(仮題)		10/4～1/27	111日	15,414人
企画展示「錦絵展」(仮題)		2/2～3/31	58日	9,091人
伝統芸能情報館 小計		4回	341日	50,809人
演芸資料展Ⅰ「悪を演(や)る -落語と講談-」(仮題)	演芸場 資料展示室	4/1～7/22	98日	13,744人
演芸資料展Ⅱ		7/28～11/25	101日	14,032人
演芸資料展Ⅲ		12/1～3/24	87日	12,836人
演芸場資料展示室 小計		3回	286日	40,612人
入門展「能楽入門」	能楽堂 資料展示室	4/26～7/7	63日	9,450人
特別展「土佐山内家の能楽」		8/30～11/4	58日	8,990人
収蔵資料展		11/10～12/23	38日	4,147人
企画展「囃子方と楽器」		1/5～3/21	54日	7,020人
能楽堂資料展示室 小計		4回	213日	29,607人
企画展示「吉田玉助の系譜」	文楽劇場 資料展示室	4/7～5/27	51日	13,930人
常設展示「文楽入門」		6/8～8/26	72日	24,020人
企画展示「未定」		9/15～12/2	79日	14,510人
常設展示「文楽入門」		1/3～3/17	74日	16,170人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	276日	68,630人
企画展「作家・大城立裕」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/14～6/24	72日	3,096人
企画展「琉球舞踊」		7/7～9/16	72日	3,096人
企画展「沖縄芝居」		10/6～12/16	72日	3,096人
企画展「盆の芸能-中国、大和と沖縄-」		1/12～3/17	65日	2,712人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		201,658人
オペラ・バレエ衣裳展示	舞台美術センター 資料館	通年	210日	800人
「舞台のデザイン～模型でみる新国立劇場のオペラ・バレエ～」		通年		
舞台美術センター資料館 小計		2回	210日	800人
公演関係展示(劇場ホワイエ)	新国立劇場内	随時		-
20周年特別展示		随時		-
「日本の現代舞台芸術」		随時		-
舞台衣裳展示(3Fギャラリー)		通年		-
公演記録写真展示(3Fギャラリー他)		通年		-
新国立劇場内 小計		5回		-
現代舞台芸術分野 合計		7回		800人

[別表10] 公開講座等に関する計画

講座等名称	会場	実施時期	回数
伝統芸能講座	伝統芸能情報館レクチャー室	未定	4回
公演記録鑑賞会（特別公演記録鑑賞会2回を含む。）	〃	毎月実施	12回
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回
能楽特別講座	〃	未定	1回
公演記録鑑賞会	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回
伝統芸能講座	〃	未定	1回
公演記録鑑賞会	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回
沖縄伝統芸能公開講座	国立劇場おきなわ 会議室・交流プラザ室	四半期毎	4回
伝統芸能分野 合計			50回
現代舞台芸術公開講座	舞台美術センター資料館	未定	2回
DVD現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	22回
現代舞台芸術講座	新国立劇場内	未定	9回
現代舞台芸術鑑賞会（情報センター上映会）	新国立劇場情報センター	毎月実施	20回
現代舞台芸術分野 合計			53回

別紙1 予算（年度計画の予算）

平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	292	5,854	677	720	2,545	10,089
雑収入		27	32	11	7	77
文化芸術振興費補助金	6,433					6,433
施設整備費補助金		547	1	2	83	633
基金運用収入	1,115					1,115
寄附金収入	207					207
その他の助成事業収入	9					9
公演事業収入		2,959				2,959
公演受託事業収入						-
計	8,057	9,387	711	733	2,635	21,523
支 出						
一般管理費					1,320	1,320
うち人件費					1,070	1,070
うち物件費					250	250
事業費	292	5,881	710	731	1,232	8,847
うち人件費	96	1,737	91	213		2,137
うち助成情報提供等事業費	197					197
うち国立劇場事業費		1,262	266	407		1,935
うち国立劇場おきなわ事業費		488	47	72	91	698
うち新国立劇場事業費		2,395	306	39	1,141	3,881
文化芸術振興費	6,433					6,433
施設整備費		547	1	2	83	633
基金助成事業費	1,331					1,331
うち人件費	158					158
うち物件費	1,173					1,173
公演事業費		2,959				2,959
公演受託事業費						-
計	8,057	9,387	711	733	2,635	21,523

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。



## 別紙2 収支計画

平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
費用の部						
国立劇場公演等事業費		6,389	406	692	91	7,579
新国立劇場公演等事業費		2,797	309	42	1,141	4,289
基金助成事業費	8,055					8,055
一般管理費					1,334	1,334
計	8,055	9,187	715	734	2,567	21,257
収益の部						
運営費交付金収益	291	5,553	675	690	2,524	9,732
事業収入	1,115	2,959	32			4,107
受託事業収入						-
資産見返運営費交付金戻入		648	7	34	36	725
文化芸術振興費補助金収益	6,433					6,433
寄附金収益	207					207
雑益	9	27		11	7	54
計	8,055	9,187	715	734	2,567	21,257
純利益	-	-	-	-	-	-
積立金取崩額						-
総利益	-	-	-	-	-	-

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙3 資金計画

平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
資金支出	13,676	9,387	711	733	5,299	29,806
業務活動による支出	9,355	8,538	707	700	2,531	21,833
投資活動による支出	1	848	4	32	104	990
翌年度への繰越金	4,320				2,664	6,983
資金収入	13,676	9,387	711	733	5,299	29,806
業務活動による収入	8,557	8,840	710	731	2,552	21,390
運営費交付金による収入	292	5,854	677	720	2,545	10,089
文化芸術振興費補助金による収入	6,433					6,433
公演事業による収入		2,959	32			2,991
公演受託事業による収入						-
基金運用による収入	1,115					1,115
その他の収入	716	27		11	7	761
投資活動による収入		547	1	2	83	633
施設整備費補助金による収入		547	1	2	83	633
その他の収入						-
財務活動による収入	600					600
民間出えん金の受入による収入	600					600
前年度よりの繰越金	4,520				2,664	7,183

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙4 施設及び設備に関する計画

平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	予定額	財源
国立劇場等大規模改修工事関連調査等	83	施設整備費補助金
国立文楽劇場外壁補修等	40	施設整備費補助金
国立文楽劇場館内監視設備等整備	46	施設整備費補助金
新国立劇場防災設備等更新	464	施設整備費補助金